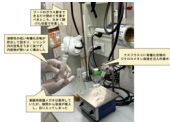
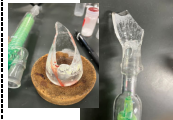


【2025年度】事故・ヒヤリハット情報一覧(サマリ版) (2026年3月31日現在)

※発生日が新しい順

※事故:16件、ヒヤリハット:6件

No.	区分	種別	発生日	学院・系	発生状況	原因	対策	DB ID	
22	事故 [速報]	被液	2/25	物質理工学院 材料系 ＜すずかけ台＞	実験室で、スクリー瓶に入った電解液を右手に、電解液を入れる電池を左手にもち、電池をよく見ようとしたところ、右手も上がってしまい、蓋の空いていたスクリー瓶から電解液がこぼれ、学生の右太ももと右ふくらはぎに 6 ml 程度かかった。その後、脱衣し10分以上流水洗浄と石鹸洗浄を実施したが、化学裂傷と診断された。			987	
21	事故 [速報]	被液	1/27	物質理工学院 応用化学系	・化合物の一部が析出していたシリンジを押して空気を抜こうとした際に針が詰まり、シリンジの隙間から溶液が噴出し、当該学生の顔の一部にも飛散した。保護メガネを着用していたが、保護メガネと顔の隙間からごく少量の溶液が目に入った。保護メガネは着用していたが、隙間から溶液が侵入し、目に入ってしまった。		◆フードのガラス扉をガラス扉を完全に開いた状態で実験を行っていた。 ◆保護メガネのサイズがやや大きかった。	◇フード付き実験台のガラス扉をできるだけ閉めた状態で実験を行うように指導を徹底し、使用する化合物の溶解性などの特性を十分に把握して実験計画を行うように周知徹底する。 ◇保護メガネは顔にフィットするサイズのものでできるだけ使用する。	986
20	ヒヤリ ハット	漏水	12/19	工学院 機械系	・シンク下(上流)蛇口部の継ぎ目から水が漏れ、付近の床に広がっていた。			985	
19	事故 [速報]	打撲	11/25	物質理工学院 材料系 ＜すずかけ台＞	・教員が、重量物(イオンポンプ)を運搬中、手動式リフターのフォークを上昇させるためハンドルを回転操作していたところ、回転ギアの逆回転防止用ストッパーが外れていたためにハンドルが速い速度で逆回転し、さらにハンドル自体が回転部から外れて遠心力で飛び、右目横のこめかみ付近に当たった。			984	
18	ヒヤリ ハット	発熱	11/21	物質理工学院 材料系	・電気炉でガラス溶融実験を行っている際、部屋の排気装置をオンにせずに実験を行っていたところ、原料から発生した水蒸気を検知して火災報知器が鳴動した。		◆通常は部屋の排気を行いながら実験を行うところ、スイッチをオンにせずに実験を行った。	◇作業者に排気状態を確認して実験を行うように指導を徹底し、研究室の安全衛生会議でも議題として取り上げ、全メンバーに通知した。	983
17	事故	発火	10/27	物質理工学院 材料系	・水素化リチウムアルミニウムを天秤で秤量中、自然発火した。天秤上の当該物質と試薬ビンからも少し火が出たため、消火砂と消火シートで鎮火した。		◆金属製の薬さじを使用したこと。さじに少量の水か有機物が付着していた可能性がある。 ◆さじを勢よく試薬ビンに入れた際に生じた摩擦が原因かもしれない。	◇本試薬の秤量には樹脂製の薬さじを使用することとした。当該さじが納品されるまでは本試薬の使用を停止した。	982
16	事故	刺傷	10/15	物質理工学院 材料系	・学部生が、実験中、針を針ケースにしまおうとした際、人差し指に刺してしまい貫通した。		◆作業の最中に実験の考え事をしており、手癖で操作を行ってしまった。	◇針の扱いに十分注意するだけでなく、針を自分の手や体に向けないようにする。	981
15	事故 [速報]	被液	10/14	総合研究院 化学生命科学研究所 ＜すずかけ台＞ ※物質理工学院 応用化学系学生	・修士学生が、分析装置(サイズ排除クロマトグラフィ装置)を用いた測定作業中、テトラヒドロフラン(THF)をシリンジから装置に注入する際、誤って飛散し、左眼に入った。保護メガネはしていなかった。			980	

No.	区分	種別	発生日	学院・系	発生状況		原因	対策	DB ID
14	ヒヤリハット	機器損傷	10/7	工学院 電気電子系	・学部生が、直流機を扱う実験で配線ミスをし、ナイフスイッチ入れた際、スイッチ内のヒューズが溶断した。		◆配線作業において、スライダックの入出力端子をつないでしまった。	◇受講生に配線対象箇所以外については配線を変えないよう明確に説明するとともに、テキストにも留意事項として追記する。	979
13	事故	火傷	10/2	物質理工学院 応用化学系	・修士学生が、ガスバーナーに火をつけ、ガラス試料管の封管を行う準備をしていた際、右手を近づけてしまい、人差し指に火傷を負った。		◆実験に十分に集中せずに行っていた。	◇細心の注意を払って実験に集中して取り組むよう指導した。	978
12	事故	被液	9/18	物質理工学院 応用化学系 ＜すずかけ台＞	・修士学生が、ベンジルチオールを用いた合成反応実験を実施した後、指先に皮膚炎の症状(かゆみ、汗疱)が生じていることに気がついた。(ポリエチレン手袋の上にニトリル手袋を2重に装着していた)		◆当該学生の体質特異的な症状(アレルギー)であると考えられる。(ベンジルチオールは取扱実績があり、これまでは同種の事象は発生していない)	◇当該学生のテーマを変更し、チオール化合物の取扱いを中止した。	977
11	ヒヤリハット	焼損	8/1	物質理工学院 材料系	・電気炉を開け、耐火煉瓦容器の蓋を電気炉内で取り外す操作をした際、蓋のバランスが崩れ、床に落としてしまい、床が焦げた。		◆耐火煉瓦のトングでの握み方が悪く、安定・保持できていない状態で移動した。 ◆高温での操作をする実験にも関わらず、床に耐火性の板(SUS製の板)を敷いていなかった。	◇耐火煉瓦の蓋の形状を見直し、トングで安定して握めるようにする。 ◇床に耐火性のSUS板を設置する。移動式ワゴンを電気炉の前に移動させてから実験を行う。	975
10	事故	切傷	7/1	物質理工学院 材料系	・修士学生が、ナスフラスコから冷却管を抜こうとした際、力をかけてしまいナスフラスコが破損し、ガラスが右手人差し指の腹に刺さり切傷。		◆力まかせに取り外そうとした。 ◆ガラス器具が強アルカリにより強く固着していたにも関わらず適切な処理をしなかった。	◇強アルカリにより強く固着している場合は、無理に力を加えず、工具を用いてフラスコの縁を軽く叩いて取り出すか、超音波洗浄で緩めてから取り出す。	973
9	事故	漏水	6/29	物質理工学院 材料系	・流し台の水道栓に接続した試料回転研磨盤への給水チューブの接続部から水が噴出し、当該実験室と隣室および階下の講義室に漏水。階下の講義室の天井に3カ所の染みが残った。		◆試料回転研磨盤使用後に水道栓の元栓を閉め忘れた。 ◆チューブは2021年6月以来交換しておらず、老朽化やゆるみが原因となって接続部から水が噴出したと思われる。	◇チューブ接続部の配管継手を交換する。 ◇試料回転研磨盤使用後に水道栓(元栓)を必ず閉めるよう指導を徹底する。 ◇水道栓と試料回転研磨盤本体の2カ所に、使回転研磨盤用後には水道栓(元栓)を必ず閉める旨の注意書きを設置する。元栓が閉まっていることを示す表示物を使い、使用後に元栓を閉めたことを確認できるようにする。	971
8	事故 [速報]	被液	6/13	総合研究院 ゼロカーボンエネルギー 研究所 ※物質理工学院 応用化学系学生	・修士学生が、プラスチックトレイ内において有機合成で用いたカーボン混テフロン製反応容器内を洗浄するため、濃硝酸(10 mL弱)をビベットで添加したところ、急激な発泡が生じ、飛散した薬液が顔面に付着した。				970
7	ヒヤリハット	発火	6/9	工学院 機械系	・学生が、静電気力を発生させる自作の装置でプラスチック片をたわませる実験を行っていた際、誘電体として使用していたシリコンオイルに引火し、プラスチック片と装置(ABS製)の一部が焼損。濡れ雑巾で消火した。		◆予想よりも装置の動きが悪かったため、電源電圧を通常の2～3kV程度から5～6kV程度に上げた。また多量のシリコンオイルを注いでいた。 ◆静電気が放電し、火花が発生した。	◇使用する電圧値を制限すると共に、使用するシリコンオイルの量を管理する。 ◇シリコンオイルよりも難燃性の高い誘電液の使用を検討する。 ◇発火に備え、周囲に可燃性の物を置かない、消火布を準備する。	969
6	事故	漏水	5/27	物質理工学院 材料系	・学生が合成実験の冷却水として使用した水道を閉め忘れて帰宅後、翌朝、合成器具(冷却管)に繋がるホースが外れ、浸水を発見。隣接の3部屋に浸水し、また階下の天井に浸水し、パネル数枚が落下。		◆当該学生が、水道を閉め忘れ、ホースが実験器具から外れた。(ホースと実験器具の固定が緩かった) ◆実験室を施錠前には蛇口の締め忘れや実験装置の点検をする決まりとなっていたが、実施されなかった。	◇改めて、実験後の水道停止と施錠前の点検を徹底。 ◇合成設備を含む水回りの設備構成の見直し、点検マニュアル・チェックリストの作成、実施。	968

No.	区分	種別	発生日	学院・系	発生状況		原因	対策	DB ID
5	事故	刺傷	5/20	総合研究院 フロンティア材料研究所 ※物質理工学院 材料系学生	・修士学生が、右側にいる先輩と話をしていた時、身体の向きを正面に戻した際、右手に持っていたシリンジの針を左手中指(甲側)に刺し、出血した。		◆シリンジ針を使用していた。 ◆当該学生はリフトオフ作業に慣れておらず、会話をしていて注意力が散漫だった。	◇先のとがっていないノンベベル針を購入し、使用する。 ◇リフトオフ操作のマニュアルを作成する。	967
4	事故	刺傷	5/14	物質理工学院 応用化学系 ＜すずかけ台＞	・修士学生が、実験室のガラス専用ゴミ箱に誤って廃棄されたゴム手袋を素手で取り出そうとした際、ゴミ箱内のバスツールピペットが折れて右手の指に刺さった。		◆ゴミが適切に分別廃棄されていなかった。 ◆素手でガラス専用のゴミ箱の中に手を入れた。	◇ガラスごみを取扱う際は、切創防止手袋を着用することを徹底する。	966
3	事故 [速報]	発火	4/25	物質理工学院 応用化学系 ＜すずかけ台＞	・部屋内の奥にある隔壁された小部屋に一時保管されていた、付着ゴミ(約10袋相当)から火災が発生し、扉、壁、窓サッシが焼損。消防の放水により消火。 ・放水により、階下の実験室に漏水。				965
2	ヒヤリ ハット	廃棄	4/22	物質理工学院 応用化学系	・既に器具の一部分が破損していた高圧水銀灯を一般ガラス器具のゴミ箱に捨ててあるのを指導教員が見つけた。		◆研究室のガラス器具を整理していた際、一部分が破損していた水銀灯を発見したが、それが水銀灯だと気付かず、指導教員に確認することもなく、ゴミ箱に捨てた。	◇自分で分からない物、判断できない物に関しては、指導教員に確認することを徹底する。	964
1	事故	被液	4/11	物質理工学院 材料系	・博士学生が、金属サンプルの表面エッチング作業中、フッ酸含有のエッチング溶液をビーカーから回収容器に片付けたところで、ゴム手袋越しに左手指の付け根あたりにビリビリとした違和感を感じた。		◆エッチング溶液に浸した金属サンプルを1次洗浄液の入ったビーカー内で洗浄し、洗浄液が付着した竹製トンゴをキムタオルで拭いたことで、キムタオルとゴム手袋越しに左手に浸透した。 ◆竹製トンゴは先端のゴムに残液が付着し易い構造であり、また普段使用しているポリ塩化ビニルではなくニトリル製のゴム手袋を使用した。	◇竹製トンゴをプラスチック製に変更する。 ◇化学薬品耐性のゴム手袋を常備して使用する。 ◇金属のエッチング実験作業について、改善点を反映したマニュアルの改訂版を作成する。	963